

全国的には、例年通り厳しい寒さが伝えられていますが、当沖縄では、25℃を越える夏日が54年ぶりに5日以上続いた等、全般に温暖な気候で年が明けました。厳しさの増す医療界も、暖かみが実感できる状況への変革が望まれてやみません。

報告事項で、県内および全国での「国民医療を守る大会」が報告されていますが、この中で宮城信雄会長が述べられているように、行政は財政難を理由に医療費削減を進め続け、医療崩壊の危機におとしめています。即ち、過重労働に起因する医師・看護師不足による産科・小児科等の地域医療提供の消失、高齢者の長期入院病床削減、患者一部負担の引き上げによる医療受診機会の減少等々が危惧されています。そのような中、座談会「療養病床の今後について」が行われています。本県における療養病床の現状、当局が規定した区分1が実状はどういったものか、これを削減することにより、医療難民の増加が明らかであること、本県の社会性に合った施策が必要であることなど、様々な問題点がよく理解できるように感じました。医師会、県、療養に関わる様々な職種の方々、老人会をはじめとする県民の方々が、正に歩調を合わせて、この大難題に対処していきたいものです。

全国勤務医担当理事連絡協議会について安里先生から報告されていますが、大阪府医師会の、医療費抑制政策に対してデモなどでもっと強くアピールを！との提言が印象的です。世論へのより以上の強い呼びかけが必要な事は確かだと思います。

近く実施となる特定健診・特定保健指導については、実施に際しての詳細な質疑応答が掲載されています。

厳しさの増す医療状況の中で20年同一施設で勤務されたコメディカルの方々142名が表彰された事を嶺井先生が報告されています。述べられているように、全ての医療従事者にとって働きがいのある職場作りが大切だと思います。

比嘉國郎先生沖縄県功労章受章・稲富洋明先生日本医師会最高優功賞受賞・中村義清先生旭日双光章受章祝賀会について安里先生が報告されています。御三名の先生方におかれましては誠におめでとうございます。今後とも変わらぬ御指導を賜りたいと存じます。

アレルギー週間に因んで、嘉数朝一先生と荻原啓介先生に各々アスピリン喘息とアトピー性皮膚炎に対するステロイド軟膏の使い方について解りやすく説明して頂きました。早速、明日からの診療に役立てたいと思います。

「生涯教育コーナー」では百名伸之先生が「こどもの貧血」について詳述されています。貧血は比較的ありふれた症候ながら、その病態は多様です。症例を挙げながらの解説で門外漢の小生にとっても勉強になりました。

インタビューコーナーでは、沖縄県医師会女性医師部会会長の依光たみ枝先生が登場しています。多忙な医師業務と家庭との両立は、大変御苦労があるものと思われそうですが、敬服の一語です。女性医師部会は勿論、医療界の過重労働等の解決に向け、御活躍を期待いたします。

吉原邦男先生、金城 譲先生には、個人的、集团的違いはありますが、それぞれ御活躍の近況をいただきました。

随筆コーナーでは、中山良有先生に「英国湖水地方紀行」の投稿をいただきました。自然や伝統の保持、全く同感です。当地においても、同様な考え方は、是非必要と考えます。樋口大介先生の「ある内地の病院午前4時の救急室」、過重労働の改善が絶対不可欠です。長嶺信夫先生の「古文書にみる聖なる菩提樹の歴史（前編）」、歴史の重みを感じられます。

今月号にもみるように、医療界の実状は厳しさが続いています。現状を理解し、改善に向け協力しあっていきたいものです。

広報委員 久場 睦夫